

<ワン・ポイント・レクチャー> こども未来コース(応用編)

第4回:演習形成で学ぶ児童期にある子どもの“成長”を促すコミュニケーション

私たちの言葉やさまざまな“動き(感情、表情、行動など)”のすべてには、必ずその引き金となる原因や理由があります。それを明らかにしなければ、その言葉の意味や“動き”を理解し、相手を“成長”に導くことはできません。

もちろん、子どもの場合もそれは何ら変わりません。特に思春期に差し掛かる頃から、保護者にとっては理解しがたい言動、過激で、反抗的な言動を子どもがするという経験をされることが多くなってくると思います。でも、これにも原因や理由が必ず存在します。ただ、厄介なことに、これらの言動をする当事者である子ども自身が、何故、こんな言動をしてしまうのかの良く分からず、戸惑っているというのが本当のところですが、そうなる原因は、思春期に入ると内からエネルギーがあふれるほどに自然と湧き出てくるからで、そのエネルギーに翻弄されてしまっていることにあります。

そのような混とんとした心理状況にある子どもたちを見守っていくには、まずは、子どもを理解しようとするのが大切です。

ただ、“理解”という言葉が簡単に使っていますが、これがなかなか“厄介”なんです。それは子どもの話を聴く保護者の側には保護者なりの価値観や考え方といったフィルターが存在しますので、通常はそのフィルターを通過できたものしか理解することが出来ないからです。また、子どもの方からいろいろと話してもらえ親子関係が出来ていなければ、理解するためのネタが保護者に届かないからです。だからこそ私は、「理解しなければならぬ」とは言っておけません。「～しなければならぬ」なんて言っても、100%達成する可能性は極めて低いことなんです。ただ、「理解しよう」と努力し続けては欲しいのです。これは、強い意識をもってすれば、し続けることはかなり高い確率で可能です。

努力さえし続ければ、子どもの言動、こころを理解することが出来るの？いえいえ、それ以上に大切なことが二つあります。一つ目は、「波長合わせ(その感情がどこから来ているかを理解)をする気持ちをもって話を聴こうとする」こと、二つ目は、「聴き手の経験に囚われずに判断・理解する」ことなんです。しかし、これがなかなか難しくって、“厄介だ”と書いたそもそもの所以なんですね。

でも、理解しようとしてくれる人、寄り添おうとしてくれる人がいると分かれば、人は自分自身を大切に思うことが出来るようになり、少しずつでも前に進む(成長する)ことが出来るようになります。むしろ、副産物のようなこちらの方が、人ひとりが生きていく上でとても大切なことなのではないでしょうか。